

# あつめよう

” 農地集積でより良い営農を築こう ”



西矢本地区で震災を契機として設立された株式会社めぐいーとの皆さん

## 農地集積に関する各地の主な行事等

- 大河原地方農地集積指導チーム 令和元年度第1回農地集積活動検討会(9月27日)
- 仙台地方農地集積指導チーム 令和元年度第1回農地集積戦略会議(7月18日～26日)
- 北部地方農地集積指導チーム 令和元年度第1回大崎地域農業農村活性化推進会議(7月17日～8月2日)  
令和元年度第2回大崎地域農業農村活性化推進会議(11月27日～28日)
- 栗原地域農地集積指導チーム 令和元年度栗原管内農地集積担当者研修会(7月16日)
- 登米地域農地集積指導チーム 令和元年度第1回農地集積戦略会議(7月30日～8月2日)  
令和元年度第2回農地集積戦略会議(12月4日)
- 東部地方農地集積指導チーム 令和元年度第1回農地集積推進に関する戦略会議(8月6日)
- 農村整備課 令和元年度第1回農地集積研修会(8月8日)  
促進計画変更に関するヒアリング(9月25日～10月1日)
- みやぎ農業振興公社 令和元年度各管内農地集積戦略会議等及びヒアリング出席
- 宮城県土地連 令和元年度各管内農地集積戦略会議等及びヒアリング出席

水土里ネットみやぎ 換地部

# 特集：おらほの担い手

## 西矢本地区

### 1. 地区のようす

西矢本地区は宮城県の北東、石巻広域圏の東松島市の西側に位置し、周辺は市街地や航空自衛隊松島基地に接している平坦な水田地帯です。

本地区は水稲プラス露地野菜等の複合経営が主体であり、一部の農家では水田単作の経営も行われていましたが、東日本大震災による甚大な被害を受け、地域の農業再生と復興のため大区画ほ場を整備し、水利条件の向上、農道の整理等、営農環境の改善により担い手へ農地の集積を進めている地区です。

担い手は個別担い手5名と3法人が中心となって経営を担っており、平成30年度時点の農地集積の割合で全体の81.07%を占めています。

事業名：東日本大震災復興交付金  
「農山漁村地域復興基盤整備事業(経営体育成型:面的)」  
関係市町村：東松島市  
関係土地改良区：河南矢本土改良区  
工期：平成24年度～令和2年度  
受益面積：A=208.4ha  
農家戸数：232戸  
総事業費：3,255百万円  
H30実績集積面積：168.96ha(うち面的154.78ha)  
H30実績集積率：81.07%(うち面的74.27%)



### 2. 法人化へのきっかけと支援

今回紹介する「株式会社 めぐいーと」は、地区の担い手として平成25年11月7日に設立された法人です。

当法人の設立のきっかけは、東日本大震災により農地及び機械、施設等が大規模に被災したことから、今後の農業経営、地域の担い手として受け皿と成りうる会社の設立を、地域での話し合いや行政も交えて検討してきました。

地域の方や石巻農業普及センター、東松島市、農協等の職員と話し合いを重ね約1年半の時間を費やして合意を取り付けながら株式会社として設立しました。

設立で苦労したことは、西矢本地区は個別経営による営農が多く、個々の考え方を参考に会社としての方針を一つにまとめそれを理解して頂きながら、同じ目標を目指して起業することが大変でした。

現在、構成員は28名で水稲、施設野菜や露地野菜、施設園芸を中心に地域農業を展開しています。

地区基盤整備関連経営体育成等促進計画では、5名の担い手農家と3つの法人が地区全体の集積面積に占める割合は61.95%(集積面積129.11ha)で、うち当法人は35.1%(73.22ha)を担うこととしています。



<豊かに実った稲とブルーインパルス>

### 3. 法人「めぐいと」の概要

#### (1) 概要

- ・名称:株式会社 めぐいと  
代表取締役 武田 恵喜
- ・構成員 28名(役員、従業員、パート職員)
- ・法人の経営面積(地区内外) 現況 146ha、目標 150ha



<コンバインによる稲刈作業>

#### (2) 法人設立までの経緯

- ・H23年3月11日 東日本大震災による津波被災
- ・H23年7月～H25年10月 法人設立勉強会及び設立準備
- ・H25年11月7日 設立総会
- ・H25年11月7日 法人登記
- ・H26年1月21日 認定農業者取得

#### (3) 経営規模

作物	面積	主な品種
水稻	97ha	ひとめぼれ、ササニシキ
大豆	43ha	
麦	24.3ha	
畑	350a	果菜類、イタリア野菜



<ミニトマトの剪定作業>

#### (4) 主な機械の保有状況

- ・トラクター 6台  
(145馬力1台、135馬力1台、95馬力2台、75馬力1台、28馬力1台)
- ・田植機(乗用型) 5台(8条植え4台、6条植え1台)
- ・コンバイン 5台(6条刈り2台、5条刈り1台、普通型汎用コンバイン2台(大豆用))
- ・乾燥機 4台(50石4台)
- ・播種機 3機(ドリルシーダ2機、クリーンシーダ1機)
- ・その他 穀物貯蔵ビン150t2基、産業用無人ヘリコプター1台

#### (5) 地区の集積と法人の実績

(単位:面積ha、集積率%)

区分		H27	H28	H29	H30
地区全体	地区集積面積	155.21	148.06	163.17	168.96
	地区集積率	74.47	71.04	78.29	81.07
	うち面的集積面積	134.07	127.29	140.50	154.78
	うち面的集積率	64.33	61.07	67.41	74.27
めぐいと	法人集積面積	89.90	89.04	109.26	95.40
	法人集積率	43.14	52.73	52.43	45.75
	うち面的集積面積	81.10	83.37	98.70	88.01
	うち面的集積率	38.92	40.00	47.36	42.23

#### (6) 法人の目標

- ・土地の有効活用と作物の選定及び販売先等の検討、6次産業化商品の拡充と販売力アップにより売上高の増大を図る。
- ・地域の受け皿として受益出来る体制を整備し、農地の面積拡大を目指す。

#### (7) 地域との連携

- ・地域との連携は特に重要なことと考えており、役に立てることについては積極的に参加協力をしている。



## (8) 法人化のメリット

- ・農地の大規模化に伴い有効利用が図られるため、大豆の転作等、個人対応しにくい部分も請け負いながら規模拡大出来る。
- ・耕作放棄地を防ぐため地域の受け皿として景観管理も含めて担える。
- ・従業員の人数を確保しやすい環境にあり、経営規模に応じた人員配置の対応が出来る。
- ・機械・農地を有効利用するとともに資材の購入先も含めて経費節減に努めている。
- ・機械等の減価償却時期が近くなっているが、国の助成金事業を取り入れながら資金調達している。

## (9) 代表取締役のご意見

会社が設立して6年目が過ぎました。

初めは会社経営の経験が無く大変でした。また、ほ場整備事業による農地整備直後の土地であるため地力が安定せず、収量も不安定な状況であったが、地力回復支援事業を活用し、有機資材を投入しながら徐々に回復している現状であります。

特に、地域の方々より大切な農地をお借りして経営しており、地権者の方はもとより地域のため役に立てます様これからも安心・安定的な経営体を心がけて参ります。



<米の出荷準備>



<麦の播種作業>

## 令和元年度 第1回農地集積研修会が開催される。

去る8月8日、県庁農村整備課主催により県職員の農地集積担当者を対象にした研修会が開催されました。この研修会は年2回開催されるもので、1回目の目的として農地集積業務の遂行に必要な知識やスキルの習得及び情報交換等により、幅広い対応力の養成を図るものであります。

研修項目は、①宮城県の農地集積実施状況について、②農地集積業務のスケジュール等について、③換地のあらましと農地集積アドバイザー6期生の紹介について、④農地集積の基礎知識について、⑤事業別・採択年度別の集積事業要件について、⑥促進(活性化)計画の変更について、⑦農地整備事業と農地中間管理事業の連携についてであり、それぞれ県庁、土地連、みやぎ農業振興公社の職員より説明を行いました。

質疑応答や意見交換では、各事務所より「担い手育成と農地集積を一体的に進めていくべき」や「高収益作物栽培の取り組みについて」等様々な意見や質疑が議論されました。



<研修の様子>

### 【問い合わせ先】

宮城県土地改良事業団体連合会 (水土里ネットみやぎ)

換地部

〒980-0011

仙台市青葉区上杉二丁目2番8号 TEL:022-263-5815 FAX:022-268-6390

【ホームページURL】 <http://www.mlw.or.jp/center/>